

平成27年度第3回 京都市民健康づくり推進会議食育推進部会 摘録

1 日時 平成28年2月9日(火) 午後3時～4時30分

2 場所 本能寺文化会館 5階 雁

3 出席者(敬称略)

【部会長】 京都大学名誉教授

小川 正

(一社) 京都市食品衛生協会副会長

池本 周三

京都市PTA連絡協議会会長

奥野 貴史

(公社) 京都市保育園連盟食育委員会委員長

河田 邦子

京都市立中学校長会健康教育部会長

山下 綾子

(一社) 京都市老人福祉施設協議会食事ケア部会長

長伊 温子

(一社) 京都府医師会理事

藤村 聡

(公社) 京都府栄養士会会長

岸部 公子

(一社) 京都府歯科医師会理事

辻 耕造

(公社) 京都府助産師会会長代理

山田 智子

京都府私立中学高等学校連合会事務局長

室 保次

市民公募委員

駒井 一正

食育指導員

松田 理英

(公社) 全日本司厨士協会京都府本部副会長

安田 和彦

(特非) 日本料理アカデミー地域食育委員会副委員長

園部 晋吾

近畿農政局経営・事業支援部地域食品課課長補佐

常峰 忠雄

京都府農林水産部食の安心・安全推進課主査

田村 敏

【京都市】

環境政策局地球温暖化対策室「DO YOU KYOTO?」プロジェクト促進課長

齋藤 久也

産業観光局中央卸売市場第一市場業務課市場活性化係長

藤井 泰孝

産業観光局中央卸売市場第二市場業務課長

廣瀬 智史

産業観光局観光MICE推進室京の食文化普及促進課長

坂根 朋子

産業観光局農林振興室農業振興整備課長

天野 和之

保健福祉局子育て支援部保育課担当係長

小池 美喜子

保健福祉局長寿社会部長寿福祉課課長

谷利 康樹

保健福祉局長寿社会部介護保険課長

米津 好美

教育委員会事務局指導部学校指導課担当課長

有澤 重誠

教育委員会事務局体育健康教育室

石原 冬彦

京都市保健センター長会(山科保健センター長)

鍋田 叔華

【事務局】

保健衛生推進室長	松田 一成
保健担当部長	吉山 真紀子
保健医療課長	志摩 裕丈
食育推進係長	大西 美佳

4 次第

- 1 「健康長寿のまち・京都食育推進プラン（仮称）」骨子案への市民意見募集の結果について
- 2 「健康長寿のまち・京都食育推進プラン」（案）について
- 3 その他
 - ・健康寿命の延伸に向けた取組について
 - ・平成28年度の食育指導員養成講座について

事務局（志摩課長）	～開会～
事務局（松田室長）	～挨拶～
事務局（志摩課長）	～出席者紹介は資料の出席者名簿参照～
座長（小川部会長）	それでは議事の1番目、「健康長寿のまち・京都食育推進プラン（仮称）」骨子案への市民意見募集結果について、事務局から説明をお願いします。
事務局（志摩課長）	ありがとうございます。それでは本日の議事の一つ目ということで、パブリックコメントの結果についてご覧いただきたいと思えます。まず、前回、前々回の部会では速報という形で結果をご覧いただいておりますが、プランの検討に向けて昨年実施いたしました意識調査の報告書がようやく冊子としてできあがりしました。少しお荷物になりますが、お配りさせていただいております。報告書の内容は、すでに京都市のホームページにも掲載しております。また、今年1月14日の京都新聞に意識調査の結果について掲載していただきましたので、参考にその記事をお配りさせていただきました。20歳代男性で「毎日朝食を食べる」方が5割を切っていると掲載されました。今の食の環境、意識、実態等に触れて記事にさせていただいたというものでございます。それでは本題に戻りまして、パブリックコメントの結果をご報告させていただきます。資料の方は、資料4と市民意見募集のために部会でもご意見をいただいてまとめました骨子案のリーフレットです。資料4のまず1枚目にパブリックコメントの概要についてまとめております。12月10日から1月15日のひと月あまりのお正月をはさんだ期間でございますが、募集をいたしました。郵送、FAX、電子メール、インターネットからもご意見をいただけるような形にしましたほか、関係機関、団体の皆様にもご協力をいただきまして、大学・専門学校等でも出前パブコメを実施しましたところ、全体で294人の皆様から373件と多数のご意見をちょうだいいたしました。下に年齢・性別の内訳やお住まいのご住所地等について、また、ご意見の提出方法別に内訳をお示ししております。大学専門学校での出前パブコメに取り組みをしましたところ、若い世代からのご意見を多数いただき、以降ご意見の内容を見てまいりまして特に若い世代の食生活の状況等に関する

るご意見が目立ったかなと見ております。一枚おめくりいただきますと、ご意見の項目別の内訳を集計しております。計画全体に関することから、一人一人の食に関すること、また、一人一人をとりまく環境に関すること、また、京の食文化や地産地消に関することなど、骨子案の項目にそった形のご意見をちょうだいしたのかなと思います。全体といたしましては、今の食の現状、例えば、さきほどの新聞の記事にもありましたけれども、特に若い世代の食生活がなかなか充実したものになっていないということや、子育て世代の食に関すること、また、部会の中でも繰り返しご意見をいただきましたけれども、様々な取り組みがすでに行われているが、なかなか市民の方に届いていない、ご存知ないということが多いのではないかとということで情報発信をもっとしっかりやっていくべきとのご意見でありますとか、情報発信の方法もたとえば、インターネット、SNS等の様々な方法を駆使して努めるべきだと。また、お知らせをしていく内容も事業の紹介にとどまらず、たとえば若い世代向けには簡単に作れる朝食のレシピやメニューを具体的に紹介してはどうかや、手軽に作れる調理方法についての調理実習をしてはどうかといったような具体的な内容に関わった部分のご意見等もお寄せいただきました。また、男性向けの食育の啓発は工夫が必要だというようなこと、一人暮らしの方々へのアプローチにも工夫が必要だといったようなこと。また、ライフステージごとの食育の推進ということに関わってこようかと思いますが、学生数が多い京都ならではの取り組みが必要だということや、20代30代などの若い女性のやせの改善が必要だと。一方で40代、50代男性向けの肥満対策が必要だということや朝食や子供の孤食についても、ご意見をいただきました。一つ一つの項目はまた改めてご参照いただくことにしまして、プランの本冊をまとめるにあたりまして、反映させたご意見等を少しご紹介します。まず、すでに実施をしているものということで、「主食・主菜・副菜をバランスよく食べることを普及すべき」だというご意見や「環境にやさしい食育を進めていくべき」といったご意見等につきましては、すでにこのプランにも掲げ取り組みを進めております。市民意見を反映させた内容としまして、少し例をあげますと、食育の普及啓発について食育指導員の積極的な活用を掲げてほしいというご意見。これは食育の普及啓発の分野でも活用してほしい、そういう風に明記してほしいという積極的なご意見です。パブリックコメントの冊子をご覧くださいと、基本施策の(1)に「食育の効果的な普及啓発」という項目を基本施策として掲げております。こちらのほうには特に、食育指導員についての取り組みがないわけでございますけれども、もともと食育指導員さんの活動支援強化等につきましては、基本施策(7)「食育に関わる人材育成、ボランティアへの支援」の一つ目に食育指導員の活動基盤強化を掲げて取り組みを進めることといたしておりました。食育の普及啓発は、一番重要だと市民の皆様のご意見も多数いただいたとご紹介いたしました。普及啓発の部分でも食育指導員の積極的な活用を掲げてほしいというご意見でした。これに対して、本冊の「食育の効果的な普及啓発」の取組項目の二つ目に、「食育指導員による食育活動の普及啓発」を明記し、食育指導員により一層ご活躍いただきたいということで新たに付け加えました。市民意見を反映させた一

	<p>つの例としてご覧いただきました。今後も計画的に食育指導員を養成していくということと合わせまして、食育指導員による食育普及啓発活動を推進していくという形で、このプラン案の中に具体化をしました。次に、「食の健康づくり応援店」をさらに効果的に広報をしたり、登録店をさらに増やしほしいというご意見につきましては、ホームページ「京・食ねっと」等でお店をご紹介するなど情報発信に力を入れていきたい。また、社員食堂と連携した取り組みとして朝食の提供やバランスのとれた食事の提供などに取り組んでほしい。こちらにつきましては、事業所等の給食施設の取組の情報発信や給食施設向けの「健康づくりハンドブック」を作成して啓発していくという形で具体化をし、プラン案に掲載をしております。以下各項目はまたご参照いただきたいと思います。骨子案について積極的に推進をしてほしいという立場からの積極的なご意見を多数いただいたのではないかなと受け止めております。市民意見募集の結果についての説明は以上になります。よろしく申し上げます。</p>
座長（小川部会長）	<p>ただいまのパブコメ等のご説明について、皆様の質問ございましたら挙手をお願いします。</p>
（一社）京都市食品衛生協会副会長	<p>食育指導員というものが出てきたが、そのようなボランティアがしっかりと活動できるためには、権威をもたさないと何をしにきてると思われるので、そのあたりをしっかりとしていただきたい。</p> <p>また、食の環境が変わってきている。家族団らんというものは消えてしまった。若い人は朝食を抜くことが多いと書いてあることは本当だと思うけれど、当たり前のことが書いてある。もう少し実態というものを把握しないといけない。たとえば、地産地消が抜けている。実は縦貫道ができ、舞鶴から伊根、養老のほうまで一時間以内でいけるようになってきた。京都の海産物はたくさんあるので、府と市の連携の中で、京丹後の水産物も含めて検討していかなければならない。学校給食については、水産物は入札しなければならないから冷凍物しか無理だろう。しかし、ちりめんじゃこなどがちゃんとあるのだから、市場の活性化になるよう、こんな食材もあるのだということをしつかりとPRしていかなければならない。</p>
座長（小川部会長）	<p>ありがとうございます。地産地消や府市連携についての御意見をいただきました。他にございますでしょうか。</p>
（公社）京都府栄養士会会長	<p>パブリックコメントの数の扱い方ですけれども、市内の大学、専門学校、学生を対象に出前をなさった。これはこれで良いことだと思います。若い方の食生活は問題がありますので、ご意見を伺うことはいいと思いますが、市民全体の意見という扱いにはならないと思います。自動的に応募が多かったわけではなく出前に行ったということですので、すごく大きな問題になりますので、そのあたりの取り扱いを考えていただいたほうがいいかなと心配いたしました。</p>
事務局（志摩課長）	<p>ありがとうございました。多数のご意見がどれかということをお聞きしようというのではなく、幅広いご意見を少しでも多くいただければと思っております。ご指摘いただき</p>

	<p>ましたように若い世代の方の意見が多かったものですから、若い世代の方の食生活に関することに比重が多くなっておりますけれども、それがいただいたご意見の多数という受け止めではございません。なかなか若い世代のご意見というものは集まりにくかったりもしますので、一つ、メリットとしても受け止めつつ、錯覚を起こさないように気を付けたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>(一社) 京都市食品衛生協会副会長</p>	<p>資料4ですが、男性は食育に無関心な人が多い。20代もそうである。この無関心な層に関心を持たせることを検討していかなければならない。</p>
<p>(一社) 京都府医師会理事</p>	<p>先ほど男性の話がありましたけれども、男性を取り巻く環境というものは非常に厳しいものがありまして、昭和55年の65歳以上の男性の高齢者は20万人で平成25年は140万人。一人暮らしの男性は、65歳以上の高齢者が7割。それから生涯未婚率がもうすぐ30%になります。朝食を毎日食べる男性は、20代男性が46.1%、30歳代が59.4%と減少しています。今後、男性の難民が出てくると思うんですよ。例えば、大学生の女の子に朝食などを100円で提供することも大切ですが、男の子がご飯を炊けるようにしないと、男性の難民が出る時代がきっと来る。小学生のころ、家庭科で初めてご飯の炊き方を知りまして、しばらくの間、男子の中でご飯の炊きあいのごっこになりまして、友達の家でご飯を炊いて食べて帰るといったのがあったのですが、今後一人暮らしの男性がものすごく増える中で、女性への食育も大事ですが、小学生の頃から男の子に食べ物を作るということが生き残るために必要ということ伝えるべきではないかなと思います。そういうこともご検討いただければなと思います。</p>
<p>(一社) 京都市老人福祉施設協議会食事ケア部会長</p>	<p>私は高齢者の施設で、高齢者の方の生活をお預かりしているのですが、高齢者お二人で生活されている世帯が、今は本当にたくさんあります。その中で、女性が倒れるなどして老人ホームに入居されたとしたら、残された男性は、さきほど、先生がおっしゃったように、家事ができない方が多いですから、瞬く間に一年足らずの中で介護が重度になってしまう現状をたくさん見ております。反対に男性が入居されて、女性が家に残された場合、女性はしっかりと生活できるケースがあります。健康寿命を延ばす、平均寿命との差を縮めるということが目標であれば、この辺りがターゲットになります。食育指導員の方がどういう指導をするかということも大変興味があります。在宅福祉を進めていく中でも、大きな問題だと思いますので、しっかりと取り組んでいかないといけないと思います。</p>
<p>教育委員会事務局 学校指導課長</p>	<p>京都市の小学校5年生の時間の中でも食べて元気、ご飯と味噌汁という時間があります。限られた時間ではありますが、しっかりとご飯の炊き方も含めまして、食事の役割、大切さ、それから栄養の種類、働きなどしっかり教える時間がございます。そのためには教員がしっかりと理解をして、子供たちにどう伝えていくかということが大事だと思っています。そのあたりしっかりと引き続き指導していきたいと思っています。</p>
<p>(一社) 食品衛生協会副会長</p>	<p>まず、今の貧しい子ども、母子家庭などの支援をしっかりと考えてやらないといけない。貧しい中、頑張っておられる母子家庭、父子家庭などの支援を考えないとこれは解決しない。</p>

座長（小川部会長）	<p>いろいろなご意見があると思いますが、次の議題に進ませていただき、また御意見をいただきたいと思ひます。それでは事務局から次の議題の説明をお願いします。</p>
事務局（志摩課長）	<p>様々ご意見をいただきましてありがとうございます。議事2の「健康長寿のまち・京都食育推進プラン（案）」について御説明させていただきます。資料5を御覧ください。こちらは、パブリックコメントに用いました骨子案をベースに、各取組の具体的な項目の部分などを膨らませた内容になっております。これまでの部会の中でもご意見を伺ったり、ご説明をさせていただいた内容の延長にありますので、一つ一つの細かな説明は省略をさせていただきますが、組み立てについてはご確認をいただこうと思ひます。資料5とパブリックコメントのリーフレットを合わせてご覧ください。まず資料5です。プランの名称は、「健康長寿のまち・京都食育推進プラン」としたいと思っております。京都市の食育推進計画といたしましては、3回目の計画になりまして、第3次という呼称でこれまでご紹介しておりましたが、今年度から、健康寿命を延伸し、「健康長寿のまち・京都」を実現していくための取組を本格的にスタートしております。まさに、健全な食は健康長寿の促進に直接かかわるもので、基本をなすものだとということで「健康長寿のまち・京都」という名前を、この食育推進プランの名称に掲げたいと考えております。次に、目次でございます。章立ては第一章から第五章まででございます。おおむね、現行の二つ目の食育推進プランの組み立てを踏襲したものとなっております。右側の1ページには、「第一章はじめに」ということで策定の背景を、2ページ目からは、プランの位置づけ等、これまでの部会の会議の中でご確認を頂いているものでございます。京都市の基本計画や「京都市民健康づくりプラン（第2次）」の食の分野の具体的な計画として作成しているということ、また右側3ページ目では、食の安全安心の計画とリンクしながら、市民の心と体の健康を支える食生活の実現を目指していくということにしております。また、4ページの「計画の策定」では、部会でご意見を伺ったということや市民の意識調査、市民意見募集を経てこのプランをまとめあげたということに記載しております。5ページ目からは、現在の食を取り巻く状況ということで、現行プランの総括を紹介し、6ページからは、現行の食育推進プランの5つの取り組みの柱、「5つの京食」のテーマごとの数値目標の到達状況や、現在の状況等をご紹介しております。朝食を食べる子どもの割合は、小学生では、低くなっているということでもありますとか、右側では、40代50代の男性の肥満の割合が多くなっているということ。一方で、1枚めくっていただきまして8ページ、京の旬野菜、地元農産物を日ごろから購入することを意識する方は増えているという状況等これまでの会議でもお話したようなことをまとめて掲載しております。9ページからは、私たちの現状ということで、主にアンケート調査、市民意識調査の結果について紹介しております。少し、スペースを割いて、17ページまで今現在の京都市民を取り巻く状況、市民の皆様の意識、調査結果について紹介をしております。18ページにそうした食を取り巻く状況と次のプランにおいて取り組む観点についてまとめております。さらに、19ページからが新しいプランの計画の内容です。新しい食育推進プランの全体目標は、京都市民健康づくりプランの全</p>

体目標である「京都市民の健康寿命を延伸し、平均寿命に近づける」であり、この大きな目標の下の食育推進プランであるということ、またそのもとでの基本理念、またスローガンとして「明日につながる今日の食」、明日につながっていく大事な今日の食事だということと、「明日につなぐ京の食」、京の文化を守り継承していく発展させていくということ二つを「明日」ということと「きょうの食」という言葉で掲げたスローガンとなっております。20ページには、4つの施策の柱とそのもとの11の基本施策、11の目指す姿があり、22ページは、その目指す姿に基づきます数値目標ということで、5年間で目指す数値目標を改めて掲載しております。23ページからは、施策の柱ごとの、具体的な取り組みを掲載しております。こちらも一例ということでご覧いただきたいと思いますが、本冊の23ページとこちらパブリックコメントのリーフレットの7ページをお開きください。まず施策の柱1は「行動の変容」ということで、一人一人が実践し、豊かな食生活で健康づくりを進めようという一つ目の柱です。まず個人の意識を変えて行動を促していこう、個人に向けてはたらきかけようということでの一つ目の柱でございました。そのうちの一つ目、基本施策1が「食育の効果的な普及啓発」ということになってまいります。先ほど、パブリックコメントのご意見を反映させたというところでもご紹介いたしました「食育指導員による食育活動の推進」というところではご意見を踏まえて新たに取組む項目を起こしまして内容を詳細に掲載したというような形になっています。24ページ以降は同様に、施策の4つの柱と11の基本施策ごとの具体的な取り組みを掲げております。25ページ以降、コラムのような形で、様々な関係部署、関係団体の取組等を紹介しています。一つ目は※1ということで、「京・食ねっと」のご紹介ですとか、「京の食文化ミュージアム・あじわい館」の取組の紹介などを掲げています。本冊をまとめるにあたりまして、京都市の食育に関係する部署に照会いたしましたところ、たくさんの取組状況を教えていただきました。市民の皆様にも親しんでいただき、また直接参考にしていただける内容になればという形でイラスト・写真を活用してまとめたものでございます。以下、同様に基本施策1つ1つについて具体的な取組を掲載しております。最後、52ページ、第5章、推進体制と進行管理です。推進体制といたしまして、京都市をはじめ、幅広い関係者、関係団体の皆様が情報交換を行い、密接に連携して、市民運動として一体的に推進をしていくことやこのプランの進行管理といたしましては、引き続き、食育推進部会において毎年ご報告し、皆様からご意見をいただき、点検、見直し、改善をはかりながら効果的な取り組みを進めていきたいと考えております。また、プランの普及啓発につきましては、市民運動組織等と連携いたしまして、それぞれの特徴、持ち味、得意分野をいかしながら、このプランの普及啓発や取組の進行をはかっていきたいと考えております。以下、参考資料といたしまして、プランの検討にあたって、26年度の終わりから本日まで4回にわたりましたの会議でご意見をいただきながら案をまとめてまいりました。そういった取り組みの御紹介と53ページには、食育推進部会に御参加いただいております学識経験者のお二人と関係機関・関係団体の皆様の御協力によってこのプランができあがったということ

	<p>で、御紹介をしております。これまで御意見をいただきながらまとめあげてきたというものでございますので、詳細までは御説明を割愛させていただきますが、こういった形で、プラン案を本冊にまとめましたので、最後、御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>
座長（小川部会長）	<p>ありがとうございました。 御質問・御意見等うかがいたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
（一社）京都市老人福祉施設協議会 食事ケア部会長	<p>本当に良いまとめをしていただき、私も賛同させていただきたいと思っております。20ページ「柱4の安全と安心」のねらいとしては、食品の安全性とか安心した食生活を送るということだと思いますが、この中に先ほどから御意見が出ている、高齢者世帯や母子家庭の世帯など、食事を十分に食べられない状況の方々にも食が安心して提供される、こういう意味合いのものを入れていく必要があるのではと思います。 私は管理栄養士ですので、食の安全に関しては厳しく考えているのですが、安心した食生活をなされているかどうか。経済的に苦しい方たちに、それが保障されているのかということ、そういうことが組み込まれているのかという点では、少しそれを感じないので、365日安心した食の提供ができるようなシステムに関することなどを盛り込んでほしいと思います。文言で結構です。</p>
（一社）食品衛生協会副会長	<p>中央市場は改築を控えているが、やっぱり食の安心安全というのが一番大切。90年の歴史の中で中央市場から一度も食中毒は出ていません。私は、65年中央市場にお世話になっておりますが、65年間もその前からも1回も出ていない。それは基本的な食の安心安全に大変注意しているからです。ただし場外流通もあります。市場を通さずに入ってくる商品については、誰が水際で対策するのか。これが問題です。たとえば、ふぐの試験は、京都の場合は100人受けたら35人くらい落ちます。ところが、大阪の場合は講習だけで済む。実施試験もない。しかし、大阪の試験で免許を取った人が、大阪の市場から京都のスーパーに物を出したら、どこでチェックするか。そこが一番の問題です。やはり食の安心と安全というのは、食の拠点としての中央市場として大きな責任を背負っています。市場の商品の安全性については、衛研が抜き打ち検査を毎日やっています。</p>
座長（小川部会長）	<p>安全な食材が供給されながら、食事を十分にとることができない方が増えている、そういう影響が出てきている中で、プランでも言及していただきたいという御意見が出ましたが、いかがでしょうか。</p>
事務局（志摩課長）	<p>ありがとうございます。プラン案の3ページを参照いただきたいと思います。少し御説明でも触れさせていただきましたが、この食育推進プランと並行した形で現在、食の安全安心推進計画を検討しているところでございます。食の安全安心推進計画というのは、食品衛生の分野での取組の計画であり、この計画とタッグを組んで食の取り組みを進めていきたいと考えております。もう一方、御指摘いただきました食の保障という部分、ワークライフバランスでありますとか、子どもの孤食、さらには子どもの貧困のような課題とも関連してくるのかなと思います。そのあたりの表現ができておりません。</p>

	<p>どういう取り組みにつなげていくことができるのか少し検討させていただきまして表現できる方法はないか、検討させていただきたいと思います。</p>
座長（小川部会長）	<p>市民からの御意見にも出ていたと思いますが、「適切な食材を選ぶ能力を身につける」という意味がよくわからない。「主食・主菜・副菜の組合せ」を選べる力も一つですが、適切に食事を選ぶ基本的な力を身につけるということをわかりやすくどこかに入れてもらえばよいかと思います。</p>
（一社）食品衛生協会副会長	<p>21ページの目指す姿ですが、京都市は全体のことを考えてやっていかないといけない。子どもの貧困もある。こんなことは本当にできるのか。普通の人ならできるが、そういう人たちのことも考えてやっていかないといけない。いいことを書いているが、実践するにはお金がついて回る。</p>
座長（小川部会長）	<p>確かに言われる通り大切なところなので、どういう風に食育の中に入れていくか知恵を拝借したいと思います。他におられませんか。</p>
（特非）日本料理アカデミー食育委員会委員長	<p>資料5です。内容が膨大ですよ。実際少しわかりづらい。 読んでいても、どこまでが第2次の取組で、どこからが第3次の取組みなのか、第2次のどういう結果を受けて第3次が生まれてきたのか。また、理想の体格とかいろいろなアンケートがあるんですけども、どういう意味があるのかよく分かりません。というのがこのアンケートがどこにつながっていくのか。13ページの小中学生の肥満度については、個人個人に聞かれて自分で計算をして出されているのでしょうか。</p>
事務局（志摩課長）	<p>御意見の途中で失礼します。肥満度そのものにつきましては、アンケートの調査の中で、身長・体重をお伺いする項目がございますので、そこから子どもさんの肥満度の測定の数式に当てはめて出しています。ご自分で御回答いただくものではないです。</p>
（特非）日本料理アカデミー食育委員会委員長	<p>こういったアンケートがいろいろあり、ここから先のことを京都市の中で把握されているのか分かりませんが、たとえば、朝食を摂らなくなった年齢というアンケートがありました。そこでその先ですよ。なぜ朝食を摂らなくなったかということまで質問を掘り下げて聞いておられるのか、朝食を摂れない理由がこうあったからこれをこう改善していくことによって朝食が摂れるようになっていくという、一連の流れがあると分かりやすいですが、この資料だけでは、最終的にどういう道筋でどこを目指してどういう結果になっていくのかというのが読みとれません。</p>
事務局（志摩課長）	<p>ありがとうございます。編集というか見せ方の問題にもなるのかなと思います。冊子自体は手作りになりますので、印刷・製本の際には、レイアウト等を改善できる場所があるのかなと思います。ご指摘いただきました朝食は、特に20代から朝食を摂らない割合が増えております。どうして摂らなくなったかというところの直接的な質問はないのですが、朝食を摂らない理由という意味では、この冊子の45ページあたりに「時間がないから」というような回答をいただいております。このあたりから推測をするような形で理解しております。すべて原因を突き詰めていくような形での調査となりますと、ボリュームも多くなりなかなか御協力をいただきにくくなるのかと思います。質問を絞りながら行いました。また、組み立てにつきましても一つ一つの課題について追及をし</p>

	<p>ていく形が分かりやすいのかと思いますが、いろんな世代の方、立場の方の課題を全体的に見たうえで、全体的な取り組みをと考えるという構成となっておりますので、一つ一つのテーマを流れの中で確認していくことがしづらいかと思われます。仕方がない部分といろいろな工夫でご覧いただきやすくするような部分は、努力をしてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。また御意見アドバイスいただけるようでしたらありがたいと思っております。</p>
<p>(一社)京都市老人福祉施設協議会 食事ケア部会長</p>	<p>意識調査ですが、高齢者においては、「60歳以上」とまとめて取られています。今寿命が長くなっているため、70歳以上でもバリバリ働き生活されている方は多いですから、たとえば12ページのやせ・肥満のところは40歳代肥満32%、50歳代肥満35.7%となっていて、これを出すのであれば、やはり後期高齢者の今の現状がどの程度だと出されたほうが良いのではないかと思います。</p> <p>データがあるのであれば、一般市民に対しては良い啓発になると思います。</p>
<p>事務局(志摩課長)</p>	<p>ありがとうございます。本冊にまとめました12ページ、13ページのやせ・肥満のところは、とりわけ40歳代、50歳代の男性の肥満割合が高くなっているということで、特徴的なところを本冊には掲載いたしております。意識調査結果の冊子の方には8ページに各年代の状況を御紹介いたしております。70歳代以上は一括りにしておりますが、各年代の統計資料といたしましては、こちらを御覧いただけるように紹介しております。どこまで、プランの冊子でお見せするかというのは精査したいと思います。高齢者の特に、やせが心配になってくるかと思いますが、大事な問題ですので、御意見うかがいたいと思っております。</p>
<p>座長(小川部会長)</p>	<p>いろいろご意見ございますが、どうしてもこれをというような御意見ございますか。よろしければ次の議題に移らせて頂きます。</p>
<p>事務局(志摩課長)</p>	<p>ありがとうございます。議事3として、2点こちらから御報告になります。まず、本年本格的に取り組を進めています健康寿命の延伸に向けた「健康長寿のまち・京都」の取組についてです。</p> <p>これにつきましては、本日御参加いただいております皆様には、市民会議等の取り組みにもたくさんの御協力をいただいております。詳しくは重複しますので、省略させていただきますが、めくっていただきまして、9ページの後ろの方に、今年度の取組状況として、昨年11月に「健康長寿のまち・京都市民会議」の準備会を設置いたしました。11月29日にはキックオフ・イベントを開催しました。今後、この取組を大きく広げていきます。28年度からは、準備会ではなく本格的な発足を始めていこうと準備をしているところでございます。これに関連する取組といたしまして、本日、資料にカラー刷りのチラシをお付けしております。「健康長寿のまち・京都」の取組を多く深く広めていくために、市民の皆様主体の取組にしたいと考え、皆様の目標になるようなキャッチコピーと合わせてロゴマークの募集をいたしております。2月1日から3月18日まで募集をいたしておりますので、募集の周知、呼びかけをお集まりいただいております団体の方でも広めていただきたいと思いますと思っております。中ほどには募集の要項と要旨、取</p>

	<p>り組みの概要説明を掲載していますので、ぜひこのチラシを広めていただきたいと思いますっております。また、たとえば機関の会議でありますとかイベント等で配ってもよいというお声をいただけるようでしたら、事務局の方までご連絡いただけましたら、お配りできる枚数を用意したいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。</p> <p>続きまして28年度の食育指導員の養成講座についてです。</p> <p>本日の会議でも何度か触れました食育指導員についてですが、今年度の養成講座で第7期が修了いたしましたして、308人の食育指導員の養成を行ってきました。現行のプランでは、食育指導員300人養成を目標ということで、取り組んできました。おかげ様でクリアできまして、308人の養成を行ったところでございます。来年度からの新しいプランの中での、食育指導員の活動の強化については、より積極的に進めていくということで掲げているところです。一方で養成講座は、28年度は一年間お休みをいただきたいと思っております。これまで養成いたしました食育指導員の研修、体制強化・活動支援強化に注力いたしまして、再来年度からの計画的な養成も含めて検討していきたいと思っております。各方面で関係団体の方に養成講座の受け入れも含めたくさん御協力をいただいております。ご期待もいただいております。今度とも御協力のよろしく願います。その他の2点、事務局の方からは以上です。</p>
座長（小川部会長）	<p>ありがとうございました。食育指導員は、更新といたしますか、講座は講座として必要だと思いますが、実践的な研修も必要かなと思います。何かございますでしょうか。</p>
食育指導員	<p>先ほどから話題になっております食育指導員の松田でございます。今のお話を全部聞いておりますとプランは全ていいもので、全て実現すればよいと思いますが、これを実践するのが私たち食育指導員ですとか、小中高や保育園などの機関だと思えます。まだ食育指導員が知られていないということもあって誤解などもあると思われま。食育指導員は1年間指導を受けます。色んな方がいて、熱い思いをもってボランティアで活動しております。たとえば46ページ開いていただくと、食育指導員のことも載っております。ちょうど私が載っているのですが、児童館での子どもたちへのお話です。</p> <p>この活動の際は、直接児童館にお伺いしまして、児童館の先生に子どもたちの食のどういところが問題なのか聞きます。媒体も手作りで、内容も話し合っって編集し、草の根的にやっております。立派なことは言えませんが、その子どもたちに合ったものをダイレクトに伝えることをやっております。食育というと漠然としますが、目の前にいる子どもたちにわかってもらえるように、児童館のお母さん方にわかってもらえるよう、またそれが押し付けにならないように楽しく行っています。</p> <p>私のようなものだけでなく技能を持った調理師さんや学校の先生、校長先生を退職した方もいらっしゃいますし、人材の宝庫という感じで頑張っておりますので、小中高等学校にも食育指導員を知ってもらって声をかけていただいて活動を広げていきたいというのが、300人の食育指導員の総意でございますので、お願いしたいと思います。</p>
座長（小川部会長）	<p>ありがとうございました。食育指導員さんの生の声を聴かせて頂きました。</p>
(公社) 京都府栄	<p>このプラン案を具体的に実行するというのはどこがどういう風に進めていくのでしょ</p>

<p>養士会会長</p>	<p>うか。目的も決まりました。こうやっていけばいいというのもわかりましたが、実際には実施するための計画とかどこでどういう風にまとめたりしていくのでしょうか。これが、良いプランだとするならこれを進めていかなければならないわけです。年齢別に分けたり、対象によって進め方も違うでしょうし、市民すべてを一緒に取り扱っていたのでは、全く進まないというのは私個人は思うのですが。一歩でも前を進めていくには具体的な計画がないと成り立たないと思うのですが。それはどちらでお進めになるのでしょうか。お聞かせいただければと思います。</p>
<p>事務局（志摩課長）</p>	<p>ありがとうございます。食育推進計画ということで、大きくは行政の計画ということで、出席しております食に関する京都市の各部局のほうで事業を具体化をして進めていきます。</p> <p>あわせて、取組の推進体制で御紹介しましたように、計画の進捗状況につきましては、今後とも食育推進部会で点検をしていただいたり、御意見をいただいたりして確認をしていきたいと考えています。食育の推進も含めて健康づくりは行政の施策事業だけで進んでいくものではございません。「健康長寿のまち・京都」の市民会議に参画いただいております各団体の皆様とも一緒に御協力をいただきながら、また各団体の中の取組でも進めていただくことも併せて大きな運動として、やっていきたいと思っております。</p>
<p>座長（小川部会長）</p>	<p>この部会に参加していただいております各団体の皆様の御協力をよろしくお願いたします。他におられませんでしたら、パブコメの結果を踏まえた案を事務局で練り直しながら、進めていただきたいと思います。ありがとうございました。本日これで終了とさせていただきます。</p>
<p>事務局（志摩課長）</p>	<p>最後に事務局を代表いたしまして松田室長の方から御挨拶申し上げます。</p>
<p>事務局（松田室長）</p>	<p>本日は長い間、活発な御意見をいただきありがとうございました。少しでもこれからプランをブラッシュアップできるように引き締めて頑張っていきたいと思っております。この話の中でありました生活困窮がいろんなところに影を落としていること、まさにその通りだと思います。昨年度までは生活保護を担当する部局にありましたし、志摩課長はひとり親支援の担当部署にありましたし、つくづくそう思いながら聞いておりました。</p> <p>ただ、食育推進プランだけですべてがかなうわけではないと思っておりますので、生活困窮者の自立支援やひとり親の自立支援、特にひとり親の自立支援については、国の方でも28年度もしっかりと力をいれてやっていくと安倍首相も言っており、だいぶ変わってくるのかなと思っております。そういう前提を整えることによって食育推進プランがさらに輝くことになると思っております。そういう部局とも連携をしながら、食育が1歩2歩でも前に進むようにやっていきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>